

令和 8年度予算見積調書

課室名：生産振興課
 担当名：花き・果樹・特産・水産担当
 内線：4146 (単位：千円)

番号	事業名			会計	款	項	目	説明事業	
P81	狭山茶DX推進研究事業			一般会計	農林水産業費	蚕糸特産及び	蚕糸特産研究費	茶業研究所費	
事業期間	令和 4年度～令和 8年度	根拠法令	「お茶の振興に関する法律」(第6条)			針路	12 儲かる農林業の推進	SDGsゴール	9
						分野施策	1202 強みを生かした収益力のある農業の確立	SDGsターゲット	9-b
1 事業概要 茶園の集積により経営の大規模化が進む一方、茶園の多くは散在しており、生育や病害虫の発生状況の確認が、茶業者の大きな負担となっている。 また、ICT技術が飛躍的に進む一方で、茶生産への導入は進んでいない。 このため、生育管理データ等の収集や解析にICTを活用し、新たな茶生産の実現に向けた試験研究を実施する。 ア 推進事業 43千円 イ 狭山茶産地におけるICT活用実証試験 6,555千円				5 事業説明 (1) 事業内容 ア 推進事業 43千円 狭山茶DX推進会議を開催し、茶業者等との意見交換や事業成果の周知を行う。 イ 狭山茶産地におけるICT活用実証試験 6,555千円 ICTを活用した茶生産の実現に向け、試験研究を実施する。 (2) 事業計画 ア 推進事業 ICT活用環境整備 推進会議の実施 イ 狭山茶産地におけるICT活用実証試験 凍霜害回避 分析データに基づく凍霜害回避の研究 害虫発生予察 画像・環境データの分析によるチャハマキ(茶の主要害虫)の発生状況と適期防除を推定する技術をIoT化 防霜ファンの遠隔操作 開発した防霜ファンの遠隔操作技術を茶業研究所内で検証 (3) 事業効果 ほ場環境データ等のモニタリング及び分析データ利用による茶栽培管理が定着し、作業の適正化・効率化により、高品質かつ効率生産の大規模経営が実現する。 自園・自製・自販による付加価値の高い茶を生産する茶業者においては、データに基づく細やかな栽培管理により、更に味や品質にこだわった商品を製造することが可能になる。 【活動指標(アウトプット)】 ・推進会議の実施(1回)・気象データ収集解析(35か所) ・害虫発生予察の実証モデル活用推進(230人) ・防霜ファンの実用性評価(1事例) 【成果指標(アウトカム)】 ・狭山茶DXアカウントの生産者登録者数 R6末：143名 → R8末：230名 ・霜害減少率 R6末：25%→ R8末：87% ・発生予察情報に基づく適期防除による収量増 R6末：800kg→ R8末：2,400kg ・防霜ファンの実用性評価 R6末：0事例→ R8末：1事例					
2 事業主体及び負担区分 (県10/10)									
3 地方財政措置の状況 なし									
4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員 9,500千円×4人=38,000千円									
予算額		財 源 内 訳						一般財源	前年との対比
		諸 収 入							
決定額	6,598							6,598	△1,500
前年額	8,098	1,500						6,598	

事業内訳書

事業名	狭山茶ＤＸ推進研究事業		
単位事業名	推進事業	予算額	43千円

○歳入 (単位：千円)

款・節	当初予算額	対前年度増減額	主な内容
一般財源	43	△1	
合計	43	△1	

○歳出 (単位：千円)

節	当初予算額	対前年度増減額	主な内容
旅費	25	0	県内旅費
需用費	15	0	消耗品費
役務費	3	△1	切手、電話代
合計	43	△1	

単位事業名	狭山茶産地におけるＩＣＴ活用実証試験	予算額	6,555千円
-------	--------------------	-----	---------

○歳入 (単位：千円)

款・節	当初予算額	対前年度増減額	主な内容
一般財源	6,555	△1,084	

単位事業名	狭山茶産地におけるＩＣＴ活用実証試験	予算額	6,555千円
-------	--------------------	-----	---------

(単位：千円)

款・節	当初予算額	対前年度増減額	主な内容
合計	6,555	△1,084	

○歳出

(単位：千円)

節	当初予算額	対前年度増減額	主な内容
旅費	275	72	県内旅費
需用費	5,980	△1,156	消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕費
役務費	300	0	電子天秤点検費
合計	6,555	△1,084	